

**新型コロナウイルス対応緊急支援助成
事業計画（実行団体）**

事業名(主)	自然体験を取り戻そう!!
事業名(副) <small>※任意</small>	～とちぎの未来を背負う子どものために～

入力数 主 12 字 副 19 字

実行団体名	特定非営利活動法人那須高原自然学校
資金分配団体名	特定非営利活動法人とちぎボランティアネットワーク

優先的に解決すべき社会の諸課題

領域	分野
<input checked="" type="checkbox"/> 1) 子ども及び若者の支援に係る活動	<input checked="" type="checkbox"/> ①経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子どもの支援
	<input checked="" type="checkbox"/> ②日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援
	<input type="checkbox"/> ③社会的課題の解決を担う若者の能力開発支援
<input type="checkbox"/> 2) 日常生活又は社会生活を営む上での困難を有する者の支援に係る活動	<input type="checkbox"/> ④働くことが困難な人への支援
	<input type="checkbox"/> ⑤社会的孤立や差別の解消に向けた支援
<input checked="" type="checkbox"/> 3) 地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況に直面している地域の支援に係る活動	<input checked="" type="checkbox"/> ⑥地域の働く場づくりの支援
	<input checked="" type="checkbox"/> ⑦安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援

上記以外 その他の解決すべき社会の課題	<input type="checkbox"/>
------------------------	--------------------------

入力数 0 字

SDGsとの関連

ゴール
<u>1.貧困をなくそう</u>
<u>3.すべての人に健康と福祉を</u>
<u>4.質の高い教育をみんなに</u>
<u>7.エネルギーをみんなにそしてクリーンに</u>
<u>8.働きがいも経済成長も</u>
<u>11.住み続けられるまちづくりを</u>
<u>15.陸の豊かさを守ろう</u>

実施時期	令和3年7月 ～ 令和4年2月	事業対象地域	全国 <input type="checkbox"/> 特定地域 <input checked="" type="checkbox"/> 栃木県	事業対象者： (事業で直接介入する対象者と、その他最終受益者を含む)	栃木県内の子ども（未就学児～高校生）、大学生、社会人	事業対象者人数	合計757名
------	-----------------	--------	---	---------------------------------------	----------------------------	---------	--------

I. 団体の社会的役割

(1) 団体の目的
子供から大人まで幅広い年代の人に対して、自然環境及び環境教育に関する事業を行い、子供の健全な育成を図り、自然環境の保全及び良好な社会環境の確保に寄与することを目的とする。
(2) 団体の概要・事業内容等
2009年9月～ 林野庁と国有林（107ha）の利用に関する協定を締結 2012年～2019年 「那須町野外研修センター」指定管理 2017年～ 「那須高原ビジターセンター」管理運営 「自然が教室、自然が教科書、自然が先生」をモットーに、自然の中での学び、不自由の中で考える想像力や他者とのコミュニケーションを大切にし、自然体験活動や環境教育を通じて青少年の健全な育成のための事業を実施している。

入力数 (1) 85 字 (2) 199 字

II. 事業の背景・社会課題

新型コロナウイルス感染症により深刻化した社会課題
<p>昨今、インターネットの普及、遊び場所の減少、少子化等様々な理由により青少年の体験の機会が減少している。多感な青少年の時期に多くの人に触れ、多くの事を体験することは、人格形成やコミュニケーション能力、興味関心の増やし将来の可能性を広げるためにもとても重要である。また、体験の中では異年齢集団での活動も大切であり、他者に対する配慮や合意形成、お互いで協力し課題を解決する力等、社会で求められる能力を子どものころから育てることができる。</p> <p>栃木県は豊かな自然環境を有し、子どもや大人に対して自然体験活動を提供する事業所も多い。しかしながら、2020年の新型コロナウイルス感染拡大により、対面でのプログラムの自粛や体験の中でも社会的距離を保った活動を求められ、今まで実践していた事業が実施できない状況が続く。また、学校においても、修学旅行や林間学校が中止になるなど、子どもたちの自然体験、集団活動の機会が大幅に失われている。同時に、雇用の不安定化や失業により生活が困窮している家庭も増加傾向であり、自然体験活動をやらせたくても余裕のない家庭が多くなっている。体験の格差の拡大も危惧される。家庭へのアンケートでは、コロナウイルスの影響により外遊びが難しくなり、在宅時間が増えた子どもたちは、体力が低下、ストレス、兄弟や親子関係の悪化などの影響も出ていることが分かった。</p> <p>また、2020年に自然体験活動実施団体向けに行った調査では、約8割の事業所が「経営に影響が出ている」と回答し、約5割の団体は100万円以上の売り上げ減少となり、全体で約28,000人の自然体験の機会が失われていることも分かった。このままだと自然体験活動事業者の存続も危ぶまれ、青少年に対する自然体験活動の提供ができなくなる。コロナ禍においても子どもたちに自然体験を届けること、自然体験活動団体が存続していく方法を見出すことが必要である。</p>

入力数 800 字

III.事業内容

(1)事業の概要
<ul style="list-style-type: none"> ●県内の子どもたちに、コロナウイルス感染対策をとりながら、日帰り型、宿泊型の自然体験活動の機会を届ける（全ての子どもたちの成長を支える） ●経済的に困窮している家庭の子どもたちも自然体験活動に参加できるように、子ども支援団体とも連携し仕組みをつくる（子どもたちの、体験の格差をつくらない） ●県内（場所は普段自然体験と触れる機会が少ない方も出入りする場所を第一候補とする）での屋外の自然体験イベントを開催。コンソーシアム構成4団体を中心に県内自然体験活動団体に声掛けをする。（自然体験活動の必要性や安全性を発信する） ●構成4団体のボランティアを対象とした研修の実施（関係者のレベルやスキルを高める）

入力数 300 字

(2)事業実施後（1年後）以降に目標とする状態
<ul style="list-style-type: none"> ●自然体験活動に参加する子どもの数：感染拡大前に実施していた規模の参加者数を回復する。 ●子どもたちのリフレッシュ：普段の生活の中でマスク着用や消毒の徹底等の不自由な生活によるストレスを感じている子どもたちに対し、自然の中で活動し、屋外の3密を避けた環境で心身ともにリフレッシュする機会を維持する ●新型コロナウイルスの影響を大きく受けている家庭に対しても、自然体験活動に参加しやすい仕組みが整う

入力数 199 字

(3)今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	実施・到達状況の目安とする指標	把握方法	目標値/目標状態	目標達成時期
<ul style="list-style-type: none"> ・県内における自然体験活動の機会が維持され、多くの子どもたちが自然体験活動に参加できる。 ・生活困窮家庭の子どもたちも自然体験活動に参加できる仕組みや参加しやすい環境を探ることができるポータルサイトが出来る。 ・コンソーシアム構成4団体が連携することで今まで参加していた参加者ではない新しい参加者層と繋がる。 ・コンソーシアムメンバー同士が個々ではできない自然体験活動の社会的意義を社会や企業など広域に発信できる。 ・参加者にとっては、自然体験活動が自分の居場所や安心できる場所となり、関わる人や困っている人を支える受け皿となる。 ・助成金内定団体同士も連携し、お互いで情報共有することにより、自然体験活動の参加者の幅を広げる。また助成金内定団体同士のセーフティネットとなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業数 ・参加者数 ・満足度 ・達成度 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業後の報告書の提出による事業実施状況の把握 ・参加者へのアンケートの実施による心身の変化を把握（コンソーシアム構成の4団体で同一のアンケートを使用する）（参加者対象及び保護者又は引率者対象の内容を検討しアンケートを収集する） 	実施事業数と参加する子どもの数 トチギ環境未来基地 16事業 192名参加 オオタカ保護基金サンバの里自然学校 14事業 425名参加 那須高原自然学校 5事業 60名参加 とちぎYMCA 3事業 60名参加 野外イベント 1回100名参加 研修会 2回40人参加 延べ 41事業 877名参加 ・うち、困窮世帯の子ども参加者数 144名 ・アンケートの目標値（達成度）「楽しかったか？」という質問に対し平均4以上を目指す（5段階評価） （満足度）「また来たいか？」という質問に対し平均4以上を目指す（5段階評価）	令和3年7月～ 令和4年2月

(4)活動	時期
第1回 コンソーシアム運営委員会	7月5日予定
幼児施設向け自然体験プログラム（NPO法人オオタカ保護基金サンバの里自然学校）【外遊びの機会が低下した幼児施設向けの自然体験プログラム】	7月14日予定
1泊2日キャンプ（トチギ環境未来基地）	7月24～25日予定
第2回 コンソーシアム運営委員会	8月11日予定
日帰り自然体験（トチギ環境未来基地）【主に困窮世帯の子どもたちに、コロナ禍においても安心して楽しく参加できる自然体験の機会を届ける。】	8月（3回予定）
幼児施設向け自然体験プログラム（NPO法人オオタカ保護基金サンバの里自然学校）	8月（2回予定）
夏休みキャンプ（那須高原自然学校）【栃木県内の子どもたちを対象とした自然体験活動の機会を増やすための自然体験プログラム】	8月18～19日予定
第3回 コンソーシアム運営委員会	9月
日帰り自然体験（トチギ環境未来基地）	9月（2回予定）
幼児施設向け自然体験プログラム（NPO法人オオタカ保護基金サンバの里自然学校）	9月（3回予定）
海キャンプ（那須高原自然学校）【茨城の海浜も拠点とし、普段栃木県ではできない経験もするキャンププログラム】→「那須の森キャンプ」に変更	9月18～19日予定
秋キャンプ（とちぎYMCA）【自然の中で子どもたちが普段のストレスから解放され、心身ともにリフレッシュするキャンププログラム】	9月（1回予定）
コンソーシアム構成4団体のボランティアを対象とした研修会を実施（外部講師依頼予定）@青少年活動センター（トライ東）	9月21日予定
第4回 コンソーシアム運営委員会	10月
日帰り自然体験（トチギ環境未来基地）	10月（2回予定）
幼児施設向け自然体験プログラム（NPO法人オオタカ保護基金サンバの里自然学校）	10月（3回予定）
日帰りプログラム～ラフティング体験～（とちぎYMCA）	10月（1回予定）
自然体験の必要性や安全性を発信する野外イベント開催（場所の候補は道の駅まんちゅう村）	10月（調整中）→11月に変更
出張クラフト（那須高原自然学校）【栃木県内の団体に出張でクラフト体験を提供するプログラム】	10月
稲刈りデイキャンプ（那須高原自然学校）【稲刈り体験などの農業体験プログラム】	10月
第5回 コンソーシアム運営委員会	11月
日帰り自然体験（トチギ環境未来基地）	11月（1回予定）
1泊2日キャンプ（トチギ環境未来基地）	11月（1回予定）→8月に実施
幼児施設向け自然体験プログラム（NPO法人オオタカ保護基金サンバの里自然学校）	11月（3回予定）
幼児親子向け自然体験プログラム（NPO法人オオタカ保護基金サンバの里自然学校）【外遊びの機会が低下した幼児親子向けの自然体験プログラム】	11月（1回予定）
第6回 コンソーシアム運営委員会	12月
日帰り自然体験（トチギ環境未来基地）	12月（2回予定）
幼児施設向け自然体験プログラム（NPO法人オオタカ保護基金サンバの里自然学校）	12月（1回予定）
子ども向け自然体験プログラム（NPO法人オオタカ保護基金サンバの里自然学校）	12月（2回予定）
冬キャンプ（那須高原自然学校）【寒い冬の時期に火のありがたさに感謝し、想像力や創造力で寒さを楽しむキャンププログラム】	12月18～19日
コンソーシアム構成4団体のボランティアを対象とした研修会も実施→オンラインフォーラムに変更	12月（調整中）→2月予定
第7回 コンソーシアム運営委員会	1月

子ども向け自然体験プログラム（NPO法人オオタカ保護基金サンバの里自然学校）	1月（2回予定）
日帰り自然体験（トチギ環境未来基地）	1月（2回予定）
キッズスキーキャンプ（那須高原自然学校）【スキー場でウィンターアクティビティを満喫し、自然の家で生活するキャンププログラム】	1月28～30日
第8回 コンソーシアム運営委員会	2月
日帰り自然体験（トチギ環境未来基地）	2月（2回予定）
キッズスキーキャンプ（那須高原自然学校）	2月18～20日
雪遊びキャンプ（とちぎYMCA）	2月（1回予定）→1月に変更
幼児施設向け自然体験プログラム（NPO法人オオタカ保護基金サンバの里自然学校）	2月（1回予定）
出張クラフト（とちぎYMCA）	2月（2回予定）
ポータルサイトの製作	2月
事業報告書作成	3月上旬
事業報告書提出	3月7日

IV.事業実施体制

(1)メンバー構成と各メンバーの役割	<p>【県北】 特定非営利活動法人那須高原自然学校（役割：幹事、事務処理、事業実施、報告書作成）</p> <p>【県東】 特定非営利活動法人オオタカ保護基金サンバの里自然学校（役割：事業実施、県内ネットワークング）</p> <p>【県央】 公益財団法人とちぎYMCA（役割：事業実施、県内ネットワークング）</p> <p>【困窮支援】 特定非営利活動法人トチギ環境未来基地（役割：事業実施、県内ネットワークング）</p>
(2)他団体との連携体制	<p>県内他の自然体験活動実施団体：子ども対象の自然体験活動を実践している団体等</p> <p>フォーラムへの参加、今後の県内の自然体験活動のあり方、存続発展のための検討等</p> <p>県内子ども支援団体との連携：キッズハウス・いろどり、県内各地こども食堂等</p> <p>困窮世帯の子どもに向けた広報、子どもたちの引率協力など</p>
(3)想定されるリスクと管理体制	<p>自然体験活動は、屋外で実施する活動がメインではあるため3密を避けやすい環境ではあるが、新型コロナウイルス感染リスクはゼロではないため、感染拡大防止のために「自然学校等における新型コロナウイルス対応ガイドライン（自然体験活動推進協議会、日本アウトドアネットワーク、日本環境教育フォーラム作成）」に則り事業を実施する。</p> <p>野外での活動はケガの発生や天候による事故等のリスクがあるため、自然体験活動のリスクマネジメントとして、活動場所の調査、備品の点検、参加者の把握、スタッフの教育、応急救護の訓練等を実施する。</p>

V.関連する主な実績

(1)休眠預金以外の助成・補助金活用の有無																		
新型コロナウイルス感染症に係る事業																		
①本申請事業について、新型コロナウイルス感染症に係る助成金や寄付等を受け活動を実施している(予定も含む)	有 <input type="checkbox"/>	無 <input checked="" type="checkbox"/>	有の場合 その詳細															
②本申請事業について、国又は地方公共団体から補助金又は貸付金（ふるさと納税を財源とする資金提供を含む）を受けていない	無 <input checked="" type="checkbox"/>	※有の場合、選定の対象外となります（公募要領：助成方針参照）																
(2)申請事業に関連する調査研究、連携の実績																		
<p>●「栃木県内の自然体験活動団体向け新型コロナウイルス感染症感染拡大に関する影響調査」を実施。</p> <p>回答期間：9月4日（金）～9月26日（土）23：59</p> <p>対象団体：栃木県内に所在を置き、定期的に自然体験活動を実施している団体</p> <p>回答数：28件</p> <p>実施団体：とちぎ自然体験活動ネットワーク準備委員会（NPO法人オオタカ保護基金・NPO法人トチギ環境未来基地・とちぎYMCAの連携団体）</p> <p>●コンソーシアム構成団体の令和2年度の実績</p> <table border="1"> <tr> <td>那須高原自然学校</td> <td>56回</td> <td>1,818人</td> </tr> <tr> <td>オオタカ保護基金サンバの里自然学校</td> <td>28回</td> <td>750人</td> </tr> <tr> <td>トチギ環境未来基地</td> <td>28回</td> <td>362人</td> </tr> <tr> <td>とちぎYMCA</td> <td>36回</td> <td>1,177人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>148回</td> <td>4,107人</td> </tr> </table> <p>主な実施エリア・・・県北地区、県東地区、県央地区</p>				那須高原自然学校	56回	1,818人	オオタカ保護基金サンバの里自然学校	28回	750人	トチギ環境未来基地	28回	362人	とちぎYMCA	36回	1,177人	計	148回	4,107人
那須高原自然学校	56回	1,818人																
オオタカ保護基金サンバの里自然学校	28回	750人																
トチギ環境未来基地	28回	362人																
とちぎYMCA	36回	1,177人																
計	148回	4,107人																